

おしえて! 和尚 /
仏事 Q&A
第1回



皆さまからよく寄せられる「仏事、こんな時はどうすれば?」というご質問について、なるべくわかりやすくお答えしていく不定期のコーナーです。

しつもん



法事のお坊さんに渡すお金は
どんな封筒に入れたらいいですか?
表書きは何と書きますか?

黒・白もしくは黄・白の水引のついた封筒に入れていただき、表書きは「御布施」と書き、下に施主さまのお名前を書いてください。



こたえ



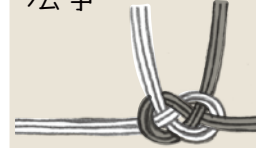
ご質問があればこのようにお答えしておりますが、実は、浄土真宗では封筒や水引にはこれといった決まりはなく、たとえば水引のない封筒でも特に問題はありません。市販の金封には多くのものに熨斗(のし)がついていますが、熨斗は神道に由来するもので仏教のものではありませんので、浄土真宗では「のし」のない掛け紙や金封を用います。

お布施は僧侶への労働報酬ではなく、お寺のご本尊である阿弥陀如来さまへの「お供え」である——というのが本来の意味ですから、表書きはどんな場合も「御布施」と書いてくだされば結構です。

水引については、地域や慣習によってさまざまですが、一般的には葬儀の際は黒・白もしくは黒・銀を、入仏式(お仏壇を新しくお迎えする時)や建碑式(お墓を建立した時)の際には紅・白もしくは金・銀のものを使うことも多いようです。

みずひき
水引

法事



黄・白でも OK

葬儀



黒・銀でも OK

慶事



金・銀でも OK



のし
熨斗

「のしアワビ」を包んだものを図案化したもので、そこから「のし」と言われています。アワビは古代、重要な食べ物で祭祀に用いられました。贈り物に「のし」をつけるのは、その品物が「けがれ」ではない記しに「なまぐさ」を添えたのが起こりで神道に由来するものです。「けがれ」の思想は仏教とは相入れないものです。

さり気なく包む文化

日本に暮らしていると「お金や物を包む」という文化が当たり前、そして根強く存在することに思い至ります。その場で支払って完結する物品やサービスの代金などでない限り、お金をむき出しで(いわゆる“はだか”で)やり取りするということは避けられがちで、ちょっと貸し借りしたお金であっても手元にある何らかの紙で包んで相手に渡す…というようなことはよくありますよね。お金だけでなく、物品であっても、相手に差し上げるものは包んでから、という慣習が古くから受け継がれてきました。環境保護の観点からいうと過剰包装は不要と思いますが、用途や季節、心情や状況に合わせてさり気なく「包む」文化はいいものだなあと感じます。



ところで、日本以外の国では、「金封」のようなものは存在するのだろうか…? ふと気になって、寺務員・ハタノさんに、海外のご友人やお知り合いの方に聞いてもらいました。各国の冠婚葬祭事情なども聞いてくれましたので、合わせてご紹介しますね。(次ページ)